

2025年度 九州体験学習参加者 感想文

金湍(キム・リン) 済州高校

2025年9月に開催された日本語スピーチコンテストで特別賞を受賞し、今回の九州体験学習に参加することになった。3位までに入賞できなかったことは少し残念だったが、今回の体験は私にとってとても特別で意味のあるものだった。

体験活動が始まったのは2026年1月22日だった。その日は飛行機で大分に到着し、ホテルに荷物を置いた後、大分駅へ行って大分の伝統市場や特産品を見学した。

韓国の市場と似た雰囲気、大分の名物や特産品に関連した食べ物やお土産をたくさん見ることができた。その後、九州で有名だという唐揚げを食べた。初めて食べる料理だったが、本当においしかった。初めて聞く馴染みのない都市・大分に少し親しみを感じることもできた一日だった。

二日目は朝早くからバスに乗って水族館へ行った。韓国と似ていながらも少し違うバスや街の風景を見て、改めて日本に来ていると実感した。車窓から見える景色は色鮮やかで、空気もきれいで、とても癒やされた。水族館に到着していろいろ見学し、動物と直接ふれあえる体験が多く、とても楽しかった。その後、すぐ前にある高崎山へ行った。もともと猿が大好きだが、あれほど近くでたくさんの猿を見たのは初めてで、とてもわくわくした。少し寒かったが、寒さを忘れるほど猿に夢中になり、本当に楽しい時間を過ごした。大人になったら、そこで働いてみたいとも思った。

三日目と四日目はホームステイをした。日本人の友達と直接会って話す機会があまりなかったが、ホームステイ先にいた同い年の友達とたくさん話して仲良くなれたことがとても嬉しかった。その友達だけでなく、家族の方々とも多く交流し、楽しい時間を過ごした。由布院にも行き、犬飼駅にも行き、神社も訪れた。そして、日本の高校生の放課後の過ごし方のように、友達とカラオケに行ったりプリクラを撮ったりし、ずっと憧れていた生活だったので、本当に幸せだった。

ホームステイが終わった後は別府へ行った。そしてAPUという大学を訪れ、さまざまな人々に出会い、不思議で興味深い体験ができ、とても楽しかった。

その翌日は大分東明高校を訪問した。幼い頃から日本の高校に通うことが夢だったが叶わず、ずっと心の中に抱いてきた。しかし、実際に行くことができ、胸が高鳴り、とても嬉しかった。学校の中で過ごした一瞬一瞬がとても大切で、叶わなかった夢を少しでも実現させてくれたことに心から感謝した。友達も先生も教室も、すべてが私の夢見ていた通りだった。おそらく、この時が今回の旅行の中で一番幸せな瞬間だったと思う。日本の高校生の友達と交流しながら、本当に特別で大切な思い出を作ることができた。

最終日は福岡へ向かった。天神や博多駅でさまざまな建物やお店を見て、ショッピングをしながら自由時間を過ごした。韓国では見られないものがたくさんあり、とてもワクワクした。

こうして、長いようで短く感じられた8日間の体験学習が終わった。友達と別れること、そして日本を離れることがとても寂しくて涙も出たが、それだけすべての瞬間が私にとって大切な思い出として残ったのだと思う。やりたかったけれどできなかった経験、そしてもしかしたら二度とできないかもしれない特別な体験をすることができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいだった。この大切な贈り物を、これからも忘れずに大事に心にしまっておきたいと思う。そして、もし機会があれば、ぜひもう一度つかんでみたい。今回の旅行を通して、新しい友達ができ、新しい目標と夢も生まれた。これほど多くのものを与えてくれた大分と、支援して下さった方々、友達、そしてホームステイ先の皆さんに心から感謝している。決して忘れることのできない、とても有意義な日々だった。

李汨建(イ・ユルゴン)翰林工業高校

2025年9月に開催された日本語スピーチ大会で特別賞を受賞し、その副賞として日本の九州地域での体験学習に参加することになった。今回の九州体験学習は、私の人生において忘れられない思い出となった。

体験学習は2026年1月22日に始まった。飛行機で日本の大分に到着後、ホテルに荷物を置き、大分駅周辺を中心に伝統市場と特産品を見て回った。韓国の市場と似た雰囲気でありながらも、日本特有の清潔さと落ち着きが感じられ、印象的だった。特に大分の名物と特産品を実際に見ることで、日本の生活文化を身近に体験することができた。夜は大分駅近くのイルミネーションを見て一日を終えた。

二日目はバスを利用してうみたまご水族館へ移動した。移動中には日本の地方都市の住宅環境と自然の風景を眺めることができた。水族館では様々な海洋生物を観覧し、一部の展示は動物を比較的近くで見られる形で構成されていた。その後、高崎山を訪れ、周辺の環境とそこに生息する猿を観察した。猿が多い場所は初めてだったが、見ているうちに面白くなってきた。

三日目には日本の家庭でホームステイを行った。ホームステイ先の学生と共に生活し、日本の学生たちの日常的な生活様式を直接体験できた。一緒にスーパーを訪れたりカラオケを利用するなど、日本の学生が楽しむ余暇活動を体験した。また普段から好きだった歌手のCDを現地で直接購入でき、有意義な時間となった。以前から日本で映画を観てみたいと思っていたが、ホームステイ先の友人と一緒に映画を観ることができ、より一層意義深い経験となった。

ホームステイの日程終了後は別府地域へ移動した。別府ではAPU(立命館アジア太平洋大学)を訪問しキャンパスを見学し、様々な国籍の学生が共に学ぶ環境をみることができた。続いて翌日には東明高校を訪問した。日本で学生生活を送ることは以前からの夢だったため、短い時間ではあったが日本の高校で実際の授業に参加できた経験は非常に有意義に感じられた。最初は慣れない環境と雰囲気にやや緊張したが、日本の生徒たちが自ら話しかけてくれ親切に対応してくれたおかげで、次第にリラックスして学校生活を体験できた。授業時間や休み時間に日本の生徒たちと様々な会話を交わし、教室の内外の雰囲気を直接感じる事ができ、これにより短かったが貴重な思い出を作ることができた。

体験学習の最終日には福岡へ移動し、天神と博多地域を中心に市内を散策しながら自由時間を過ごした。お店や街並みを観察しながら日本の都市の様子を観察し、全ての日程を終えた。

このような機会を設けてくださった領事館関係者の皆様と大分地域の関係者の皆様、そして温かく迎えてくださったホームステイ先の家族の方々に心より感謝申し上げます。長く記憶に残る意義深い経験であった。

崔僖恩(チェ・ヒウン) 濟州高校

2025年の夏、日本語スピーチ大会で入賞したおかげで、日本の九州地方にある大分県を1週間旅行できる貴重な機会を得た。大会に向けて努力した時間がこの旅行で報われるようで、出発前からとても期待していた。短い時間ではあったが、今回の旅行は日本という国と大分という地域をより深く理解できた特別な経験だった。

旅行中、最も記憶に残っているのは、ホームステイ先のご家族と過ごした時間である。中でも家族と一緒にジブリ展に行った経験が特に印象的だった。幼い頃から好きだったジブリ作品を日本の現地で、そして日本の家族と一緒に鑑賞したことが、まるで作品の中の世界に入り込んだような気分になった。お互いに好きなキャラクターについて話しながら自然に日本語で会話ができ、言語だけでなく文化や感性を共有できたことで、とても意義深い時間だった。

もう一つ忘れられない経験は、日本の高校生たちと共に実際の授業に参加したことである。教室で日本の生徒たちと一緒に座り授業を受け、グループ活動で意見を交わすことがとても新鮮だった。教科内容だけでなく、学校の雰囲気、生徒たちの姿勢、授業の進め方など全てが新しく感じられ、日本の生徒たちの日常の中に実際に入ったような感覚を覚えた。この経験を通じて日本語を「勉強する言語」ではなく「コミュニケーションの手段」として実感することができた。

また、今回の旅行を通じて大分県という地域にも大きな魅力を感じた。比較的静かでゆったりとした雰囲気、親切な人々、そして自然と都市が調和した風景がとても印象的だった。短い滞在だったが、心心が安らぐ場所だと感じ、機会があればぜひもう一度訪れたいと思った。

今回の大分旅行は日本語能力の向上だけでなく、新しい文化と人々に出会えた貴重な経験だった。

これからもこのときの思い出を胸に、日本語の勉強により一層励みたい。そしていつかまた大分を訪れ、あの時に感じたときめきと温もりをもう一度味わいたい。